

グローバルフェスタ 2024

参加報告書

開催日時 9月28日(土) ▶ 9月29日(日)

開催時間 10:00~17:00

会場 新宿住友ビル三角広場/新宿中央公園水の広場

「グローバルフェスタ JAPAN」は、国際協力活動、SDGs などに取り組む官民様々な団体が一堂に会する国内最大級の国際協カイベントです。アフリカ理解プロジェクトは、2005年からこのイベントの NGO ブースに出展しています。



「グローバルフェスタ JAPAN」とは？

「グローバルフェスタ JAPAN」は、国際協力の現状や必要性などについての理解と認識を深めてもらうことを目的とした国内最大級の国際協カイベントで、外務省、独立行政法人国際協力機構 (JICA) 及び特定非営利活動法人国際協力 NGO センター (JANIC) が共催し、毎年10月6日「国際協力の日」前後に開催されます。

2024年は、1954年に日本がODAを開始してから70年の節目の年。国際協力70周年を迎える本年、第33回目になる「グローバルフェスタ JAPAN2024」は、屋内のほかに屋外にも会場を設け、約200団体の出展団体によるブースや多彩なゲストが出演するステージ、体験イベント、様々な国の食事が楽しめる飲食・物販ブースなど盛りだくさんのプログラムでした。

本フェスタを通じて、諸外国への理解が深まるとともに、より良い世界をつくるため、ともに未来へ向けて国際協力に参加する仲間が増えていくことが期待されます。

「アフリカ理解プロジェクトの 2024 年の展示テーマ」

2010 年から取り組むアフリカ生産者支援プロジェクト、また今年 2 月に出版した新刊『アフリカでアーティスト&アーティザンと私たちがモノづくりした話+アフリカ 8 つの楽しみ方』の広報をテーマ展示・販売を行いました。

コロナ感染症や紛争によりアフリカの生産者支援が困難な現状、アフリカ文化やハンドメイド製品の認知度向上により、貧困削減など SDGs 達成をめざしていることを説明しました。来場者からは、パネル展示や開発商品に関してたくさんの質問やご意見をいただきました。

また、外務省のフォトコンテストには毎年活動写真を応募し、写真は会場に展示されました。（後日、外務省より応募作品のなかの 1 枚が選ばれ、今年度の ODA 白書に掲載されるとご連絡いただきました）



毎年グローバルフェスタで実施される外務省主催の国際協力フォトコンテスト。今年も活動写真 4 点を応募しました。



右も応募した作品です。「遊牧民“詩とエッセイのコンテスト”」を本の収益をつかったカラコ遊牧民の教育支援で、詩とエッセイのコンテストを行っています。当日は、生徒や教師のほか両親や親戚、近隣の教育関係者など大勢がトラックの荷台に乗って駆けつけるイベントになっています。自分たちが作った詩を壇上で読む生徒の姿を、誇らしそうに見る両親の姿がいつも印象的です。



この作品が 2024 年の ODA 白書に掲載されることになりました。「コロナ禍をのりこえて」エチオピアの首都アジス・アベバで開かれたイベントで、支援する手織りショールを織る女性グループと 3 年ぶりの再開。コロナ禍で収入は激減しましたが、持ちこたえました。対面販売が始まり、女性の顔は明るい。互いの無事をよるこび合いました。

展示/販売の様子



今年は新宿で開催。ODA70周年ということで野外・屋内で様々なプログラムが用意されました。



NGOブースはメインステージ横。来場者は全体としては増加し活気がありましたが、ブース配置には改善が必要です。通路が狭く、ステージの音響でスタッフの活動の説明がかき消され、かなり残念です。



書籍「新刊」「アフリカ料理の本」「エチオピアコーヒー伝説」などの書籍や生産者支援のストーリーのあるオリジナル商品が販売できました。



それでもたくさんの方がブースを訪れてくださり、アフリカに関心を持つ人が年々増えていると感じます。

待望の新刊ができました！好評販売中

第1章は、モノづくりの話です。



アフリカ各国は、いま観光産業に力を入れており、政府も伝統的な工芸品や土産物産業の育成に積極的です。人の手でつくる手工芸品は、設備投資に資金がかからないうえ、多くの雇用を生み出します。私たちは今から13年前、アフリカの小さな生産者グループとモノづくりをはじめました。そのなかで「モノづくりは人づくり」でもあることなど、多くの知見を得ました。新型コロナウイルス感染症パンデミックでは、観光客を失い収入が激減したアーティストやアーティザンとオンラインを活用し、世界中どここの国や地域からでもできる生産者支援をはじめました。第1章では、アフリカで

の「モノづくり」や「ボーダレス時代の新たな支援の方法」の経験と学びを共有しています。

第2章は、アフリカの楽しみ方の話です。

日本で取り上げられるアフリカの情報は限定的で、アフリカの自然や、文化、食生活など、普通の人の暮らしを伝える情報はとても少ないのが現状です。多様なアフリカを知って欲しい、見つけて欲しい、そう願い話題を集めました。また、この章には私たちの講座で人気の高かった「体験」もたくさん掲載しています。いろいろな体験を通して、アフリカを身近に感じてもらえれば嬉しいです。



グローバルフェスタ 2024

参加報告書

最後にこの本は、アーティストと構想を練り、アーティストが描き下ろした原画をふんだんに使った参加型の本です。そのため本の構想から、5年の時が過ぎました。アフリカには“ゆっくりゆっくりバナナは熟れる”ということわざがあります。本書が おいしく熟したバナナとなり、これからアフリカに旅立つ人たちの糧となれば幸いです。



タンザニアのアーティストたちと本づくり

コロナ禍で激減した観光客。収入を失ったタンザニアのアーティストたちとモノづくり・本づくりをしたプロジェクトを、今年『アフリカのアーティスト&アーティザンと私たちがモノづくりした話』としてまとめ、出版しました。ティンガティンガアーティストたちの夢は、“作品でみんなをハッピーにすること！”